

E-7 共働き家庭における家事労働のあり方と住空間について (第2報)
三重大教育 ○中島喜代子 岡部典子

目的 1報で、共働き家庭の家事労働のあり方について考察したことに引き続き、2報では、家事労働のあり方、考え方と、家事労働空間、住空間のあり方との関連について、考察する。

方法 前報と同様に1報と同様である。

結果

1. 家族周期、家族形態によ、家事合理化パターンが決定される。
2. 家事合理化パターンと、家事に対する考え方に関連がみられた。
3. 家事労働空間(台所型)において、現在型と希望型との一致度が高く、独立KA型をもち、独立KB型、DK型も同時に独立KB型への希望が高い。又、独立KB型、LBK型、FR型への希望が増加している。
4. 家事合理化パターンと台所型との関連がみられた。
5. 同様に、家事に対する考え方と希望台所型にも関連があり、主婦専任型では、独立K型が多い。
6. 住空間の型と家事合理化パターン、家事に対する考え方との関連が強い。
7. 住空間の型と家事労働空間との関連も強い。
8. 家族の属性が家事合理化パターンを、家事合理化パターンが台所型希望型と、台所の希望型が住空間の型を規定していると考えられる。